

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成 11 年法律第 117 号）第 7 条の規定に準じて特定事業に選定された一般廃棄物処理施設整備・運営事業について、事業者選定委員会から審査講評を受理したので、同法第 11 条第 1 項に規定する客観的な評価の結果として公表する。

令和 3 年 1 0 月 1 1 日

能代山本広域市町村圏組合
理事会代表理事 齊 藤 滋 宣

一般廃棄物処理施設整備・運営事業

審 査 講 評

令和3年 10 月 11 日

一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会

《目 次》

1	一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会.....	1
2	審査方法.....	1
3	選定委員会開催経過.....	2
4	審査結果の概要.....	3
	（1） 応募者.....	3
	（2） 参加資格審査.....	3
	（3） 参加資格審査結果の通知.....	3
	（4） 基礎審査.....	4
	（5） 非価格要素審査.....	4
	（6） 価格審査.....	10
	（7） 総合得点の算出及び最優秀提案者の特定.....	10
5	総評.....	12

1 一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会

能代山本広域市町村圏組合（以下「組合」という。）は、一般廃棄物処理施設整備・運営事業における事業者の決定にあたり、専門的意見に基づき公平かつ客観的な審査を実施するため、一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）を設置した。選定委員会を構成する委員は、学識経験者等から選出された次の7名である。

一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会

委員名	所 属
濱田 雅巳	公益社団法人 全国都市清掃会議 技術部長
柴山 敦	国立大学法人 秋田大学 大学院国際資源学研究科 教授
高橋 正嘉	秋田県生活環境部環境整備課 課長
宮野 弘幸	能代市都市整備部 部長
村岡 徳一	藤里町生活環境課 課長
進藤 敦	三種町建設課 課長
石嶋 勝比古	八峰町建設課 課長

2 審査方法

審査方法の詳細については、最優秀提案者決定基準書に示すとおりである。

本事業では参加資格審査を実施した後、基礎審査を実施した。その後、応募者から提出された事業提案書の内容を評価して得点化する非価格要素審査及び提案価格を得点化する価格審査を実施し、非価格要素点と価格点の合計値を総合得点とし、総合得点の最も高い応募者を最優秀提案者として特定した。このうち非価格要素審査の実施にあたっては、事前に応募者へのヒアリングを実施し、事業提案書の内容について理解を深めた。

なお、審査にあたっては、応募者番号のみが記載された審査資料に基づき審査し、応募者の匿名性を確保した。

3 選定委員会開催経過

選定委員会の開催経過等は、表－1に示すと通りの日程により実施した。

表－1 選定委員会の開催経過等

日 程	内 容
令和2年 8月 21日 (金)	第1回 一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会（事業スケジュール等の審議）
令和2年 10月 19日 (月)	第2回 一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会（実施方針（案）及び要求水準書（案）等の審議）
令和2年 11月 20日 (金)	実施方針及び要求水準書（案）等の公表
令和2年 12月 8日 (火)	実施方針等に関する質問、意見の受付期限
令和2年 12月 22日 (火)	実施方針等に関する質問、意見への回答公表
令和3年 2月 16日 (火)	第3回 一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会（特定事業の選定（案）、募集要項（案）、要求水準書（案）、最優秀提案者決定基準書（案）、様式集（案）、応募書類の作成要領（案）、基本協定書（案）及び事業契約書（案）等の審議）
令和3年 2月 26日 (金)	募集公告及び募集要項等の公表
令和3年 3月 5日 (金)	第1回募集要項等に関する質問の受付期限 【参加資格に関する質問】
令和3年 3月 12日 (金)	第1回募集要項等に関する質問の受付期限 【参加資格以外に関する質問】
令和3年 3月 19日 (金)	第1回募集要項等に関する質問への回答公表 【参加資格に関する質問】
令和3年 3月 31日 (水)	参加資格審査書類の受付期限
令和3年 3月 31日 (水)	現地見学会申込受付期限
令和3年 4月 2日 (金)	第1回募集要項等に関する質問への回答公表 【参加資格以外に関する質問】
令和3年 4月 6日 (火) 令和3年 4月 7日 (水)	現地見学会の実施
令和3年 4月 9日 (金)	参加資格審査結果通知・応募者番号の交付
令和3年 4月 14日 (水)	第1回募集要項等に関する質問への回答公表（修正回答） 【参加資格以外に関する質問】
令和3年 4月 15日 (木)	対面による対話用資料受付期限
令和3年 4月 27日 (火)	第4回 一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会（対面による対話への出席等） 対面による対話の実施
令和3年 5月 14日 (金)	第2回募集要項等に関する質問の受付期限
令和3年 6月 4日 (金)	第2回募集要項等に関する質問への回答公表

日 程	内 容
令和3年 6月18日 (金)	第2回募集要項等に関する質問への回答公表 (修正回答)
令和3年 6月18日 (金)	余熱利用計画の変更等に伴う募集要項等の変更公表
令和3年 6月22日 (火)	第3回募集要項等に関する質問の受付期限
令和3年 6月25日 (金)	第3回募集要項等に関する質問への回答公表
令和3年 7月30日 (金)	事業提案書受付期限
令和3年 8月24日 (火)	第5回 一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会 (基礎審査等の審議)
令和3年 9月27日 (月) 令和3年 9月28日 (火)	第6回 一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会 (応募者ヒアリング、非価格要素審査、価格審査、総合得点の算出及び最優秀提案者の特定等の審議)
令和3年 9月29日 (水)	最優秀提案者の決定
令和3年 9月30日 (木)	最優秀提案者の公表

4 審査結果の概要

(1) 応募者

令和3年2月26日に募集公告及び募集要項等を公表した本事業は、3者の応募グループから参加資格審査書類が提出された。

(2) 参加資格審査

募集要項書で示した参加資格を応募者が満たしていることを表-2に示すとおり確認した。なお、参加資格審査は組合において実施した。

表-2 参加資格審査結果

項 目	各応募者
ア 共通の参加資格要件	合 格
イ 当該業務を行う者の参加資格要件	合 格
(ア) 本施設のプラントの設計・建設を行う者	合 格
(イ) 本施設の建築物等の設計を行う者	合 格
(ウ) 本施設の建築物等の建設を行う者	合 格
(エ) 運営事業者から本施設の運営・維持管理業務を受託する者	合 格

(3) 参加資格審査結果の通知

令和3年4月9日に参加資格審査結果を組合から応募者に通知した。

なお、参加資格を確認した応募者に組合が応募者番号 (赤グループ、青グループ、緑グループ) を無作為に設定し、選定委員会は匿名により審査を行った。

(4) 基礎審査

応募者から提出された事業提案書に記載された内容が、最優秀提案者基準書に示す基礎審査項目を満たしていることを審査した。

その結果については、表-3に示すとおりである。

表-3 基礎審査結果

項目	応募者		
	赤グループ	青グループ	緑グループ
◆提出書類の確認 ○必要な書類が揃っているか。	合格	合格	合格
◆事業提案書の要求水準確認 ○事業提案内容が要求水準を満たしているか。	合格	合格	合格

(5) 非価格要素審査

ア 評価項目の採点基準及び得点化方法

応募者から提出された非価格要素審査に関する提出書類をもとに最優秀提案者決定基準書に示す25項目について表-4に示す採点基準にしたがって、提案内容を得点化した(配点60点)。

表-4 審査項目の採点基準及び得点化方法

評価	採点基準	得点化方法
A	当該評価項目において特に優れている	(配点×1)
B	AとCの中間程度	(配点×0.75)
C	当該評価項目において優れている	(配点×0.5)
D	CとEの中間程度	(配点×0.25)
E	当該評価項目において優れていると認められない	(配点×0)

イ 審査結果一覧

非価格要素審査結果は表-5に示すとおりである。

表－５ 非価格要素審査結果一覧

評価項目	配点	赤 グループ	青 グループ	緑 グループ
非価格要素審査				
1 設計・建設に関する事項				
(1) 機械設備に関する事項 (20点)				
ア プラントの信頼性	10	6.79	6.79	6.79
イ 機器配置計画	4	2.43	2.57	2.57
ウ 非常時対応	4	2.71	2.86	2.29
エ 地球温暖化対策・エネルギー有効利用	2	1.14	1.64	1.00
(2) 土木・建築に関する事項 (20点)				
ア 配置動線計画	5	2.68	3.57	2.68
イ 建築各種計画	5	3.21	2.86	2.86
ウ 造成計画	4	2.43	2.57	2.00
エ 見学・学習機能計画	3	2.04	2.14	2.04
オ 外観計画	3	1.71	1.71	1.71
(3) 機械設備及び土木・建築に共通の事項 (10点)				
ア 工事施工中の対応	4	2.00	2.00	2.00
イ 省エネルギーへの対応	2	1.14	1.36	1.00
ウ 工程管理	4	2.14	2.29	2.00
2 運営・維持管理に関する事項				
(1) 運転管理 (16点)				
ア 運転管理体制	3	1.50	1.82	1.93
イ 受入・受付・搬入物管理	6	4.29	4.29	3.64
ウ 運転計画	4	2.43	2.43	2.14
エ 緊急時対応	3	1.71	1.71	1.93
(2) 維持管理・補修計画 (7点)				
ア 維持管理・補修計画(プラント部分)	4	3.00	2.57	2.43
イ 維持管理・補修計画(プラント以外)	3	1.71	1.61	1.50
(3) 測定計画 (4点)				
ア 公害防止の対応	4	2.43	2.29	2.43
(4) その他関連業務等 (3点)				
ア 運営期間終了後の計画	3	1.82	1.61	1.82
3 事業計画に関する事項				
(1) 全体計画 (4点)				
ア 事業実施体制	4	2.43	2.29	2.14
(2) リスク管理 (4点)				
ア 財務の健全性及び想定されるリスクと対応策	4	2.43	2.29	2.29
(3) 地域貢献 (12点)				
ア 事業期間を通じた地元事業者への発注	6	3.64	3.86	4.07
イ 運営・維持管理業務時における地元採用等	3	1.82	1.93	2.25
ウ 地域への貢献・組合との連携	3	1.61	1.82	1.61
非価格要素評価項目得点の合計値	100	61.24	62.88	59.12
非価格要素点 [(60点×(評価項目得点の合計値/100)]	60	36.74	37.73	35.47

注) 得点は小数第3位を四捨五入して、小数第2位まで算出した値

ウ 非価格要素審査の講評

非価格要素審査の講評は表-6に示すとおりであった。

表-6 非価格要素審査の講評 (1/4)

評価項目	講 評
1 設計・建設に関する事項	
(1) 機械設備に関する事項	
ア プラントの信頼性	<p>①プラントシステムの信頼性</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも可燃ごみ処理施設について、納入施設における過去のトラブルを踏まえた技術改善等の実績に基づき、信頼性及び耐久性があり、安定して使用できるプラントシステム（受入供給設備～計装設備）についての優れた提案がなされていた。 各グループとも可燃ごみ処理施設及び不燃ごみ・粗大ごみ処理施設について、プラントの点検及び補修が容易であり、トラブル発生時においても迅速に復旧できるプラントシステム（受入供給設備～計装設備）についての優れた提案がなされていた。 各グループとも不燃ごみ・粗大ごみ処理施設における鉄及びアルミを回収するための処理システムについての優れた提案がなされていた。 各グループとも不燃ごみ・粗大ごみ処理施設における爆発及び火災発生に対して、過去の事例やリチウム電池等によるトラブルへの対策を含めた予防保全、検知、事後対処方法に関する優れた提案がなされていた。 <p>②ごみ質及びごみ量の変動に対するプラントの適性</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも可燃ごみ処理施設について、ごみ質及びごみ量の変動（非常時含む）に対する設備の適性（低負荷及び高負荷特性）を考慮した優れた提案がなされていた。
イ 機器配置計画	<p>①機能性、メンテナンス性、安全性に配慮したプラント施設の配置・動線計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも可燃ごみ処理施設及び不燃ごみ・粗大ごみ処理施設について、プラント機器の更新を考慮し、搬入・搬出が容易にできる配置・動線計画についての優れた提案がなされていた。 各グループともメンテナンスの空間（可燃ごみ処理施設におけるクレーン上部、各炉間、炉と建築隙間、各機器周り及び各機器上部並びに不燃ごみ・粗大ごみ処理施設における破砕機室、選別設備室及び各機器上部）が確保された配置・動線計画についての優れた提案がなされていた。 各グループとも可燃ごみ処理施設及び不燃ごみ・粗大ごみ処理施設における中央制御室、電気関係諸室は、機器のリプレイス時へ配慮した空間が確保された優れた提案がなされていた。特に、青グループ及び緑グループについては、メンテナンスを容易にするための効果を期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。
ウ 非常時対応	<p>①非常時の安全性</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも電気事業者からの電力供給が断られた場合にも、可燃ごみ処理施設及び不燃ごみ・粗大ごみ処理施設のごみ処理を自立再開可能とするための負荷機器リスト及び容量設定が適切である優れた提案がなされていた。特に、青グループについては、停電時の自立運転継続が可能となる効果を期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも可燃ごみ処理施設及び不燃ごみ・粗大ごみ処理施設について、非常時においても、人身事故や機能障害を防止するための機能を有したプラントシステムについての優れた提案がなされていた。特に、赤グループについては、人身事故や機能障害を防止するための機能を具体的に提示のうえ、それらの事故及び障害を防止するための効果が期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも可燃ごみ処理施設及び不燃ごみ・粗大ごみ処理施設について、ヒューマンエラーによる一次災害、二次災害を防止する機能やシステムの構築に関して優れた提案が実績に基づきなされていた。
エ 地球温暖化対策・エネルギー有効利用	<p>①提案施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも本施設の消費電力を賅ったうえで、さらなる焼却廃熱のエネルギーを利用した提案内容が具体的であり、組合の事業費負担の低減に寄与する提案がなされていた。特に、青グループについては、経済性の向上や環境負荷低減の効果を期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。 <p>②地球温暖化対策・エネルギー有効利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも焼却廃熱を利用した発電により、本施設内の消費電力を賅ったうえで売電できる電力量が多い提案がなされていた。 <p>③売電収入向上に向けた提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも組合に帰属する売電収入の向上に向けた単価、売却先についての提案がなされていた。 <p>④売電の安定性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも売電を安定的に実施できる体制についての提案がなされていた。特に、赤グループについては、売電を安定的に実施するための方法を具体的に提示のうえ、確実な売電収入につながる提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも不具合への対応等について具体的な提案がなされていた。
(2) 土木・建築に関する事項	
ア 配置動線計画	<p>①地域特性に配慮された配置計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも各施設の配置計画について、水田やポンボコ山公園が近接し、地域住民が利用するなどの地域特性に配慮された合理的かつ効率的な配置であり、安全性・利便性に優れた提案がなされていた。 各グループとも積雪地帯であることを考慮し、事業実施区域内の除雪、ロードヒーティング等積雪・凍結対策を踏まえた配置・動線計画について、実績に基づいた優れた提案がなされていた。特に、青グループについては、積雪地帯における作業性確保の観点からより効果の期待できる提案がなされている点を高く評価した。 <p>②安全性、利便性を考慮した動線計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも車両動線について、出入口の滞留や計量時の待機など、混雑時の円滑な運営を考慮した動線が確保されており、組合職員・見学者・住民等が利用しやすく分かりやすい動線・サイン計画の提案がなされていた。 不燃ごみ・粗大ごみ処理施設の荷下ろしヤードについて住民等の安全性を確保した提案がなされていた。 各グループとも不燃ごみ・粗大ごみ処理施設からの可燃残さの搬送方法について、安全性、安定性を考慮した具体的な提案がなされていた。 各グループとも組合職員・見学者・住民等の歩行者動線について、各施設及び諸室の機能的なつながりやゾーニングが考慮された、合理的かつ安全で利用しやすい提案がなされていた。

表一 6 非価格要素審査の講評 (2 / 4)

評価項目	講 評
イ 建築各種計画	<p>①意匠・構造・仕上げ・外構・設備等各種計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも積雪・凍結等の地域特性を踏まえた意匠・構造・仕上げ・外構・設備等の各種計画についての優れた提案がなされていた。特に、赤グループについては、地域特性を踏まえた具体的な計画を提示のうえ、冬季の積雪対策等の効果が期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも意匠計画について、組合職員・見学者・住民等の利用者の快適性や使いやすさに配慮された計画であり、フレキシブルな利用が可能で有事の際にも柔軟に対応できる優れた提案がなされていた。特に、赤グループについては、災害時の感染症対策を考慮した独自の提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも構造計画（免震、制震等）について、各機器の特性に応じた構造となっており、災害時における安全性が高い優れた提案がなされていた。 各グループとも設備計画について、効率的な施設運営の観点から効果的な計画であり、維持管理、更新性など工夫された優れた提案がなされていた。 各グループともプラント設置室の仕様について、プラント使用環境下にあることを踏まえた優れた提案がなされていた。
ウ 造成計画	<p>①災害時の安全性の確保及び地域特性を踏まえた施工・品質管理計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも建設地の地下水、湧水、地形、地質状況を踏まえた造成計画の提案がなされていた。特に、赤グループについては、造成計画において冬季の風対策の効果が期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも配置計画、動線計画を実現するための十分な範囲を確保した造成計画の提案がなされていた。 各グループとも地震、異常豪雨、水害等の想定される災害に対して、創意工夫した安全性の高い計画となっていた。特に、青グループについては、災害に対する安全性の高い計画において浸水被害防止の効果が期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも積雪や凍結等の地域特性を踏まえた各種使用材料の妥当性、施工品質の管理方法についての具体的な提案がなされていた。 <p>②周辺環境に配慮した施工計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも土砂配分バランス、建設廃棄物の再利用方法等、周辺環境に配慮した具体的な提案がなされていた。 各グループとも工事期間中の濁水処理方法や排水計画等、周辺の田畑への影響に配慮した具体的な提案がなされていた。
エ 見学・学習機能計画	<p>①見学・学習機能の具体的なコンセプトの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも将来的な社会情勢を踏まえ、循環型社会や低炭素社会、3Rの推進施策の啓発に貢献し、自然豊かな地域特性を活かした魅力的な見学ルート及び展示学習内容の提案がなされていた。 各グループとも見学学習機能のコンセプトが明確であり、コンセプトとの整合性の高い独自性・機能性に優れた見学ルート及び展示学習内容の提案がなされていた。 <p>②見学者の安全性、理解促進に配慮した見学ルートの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループともごみの焼却処理や発電の仕組み全体を俯瞰でき、理解促進に配慮した見学ルートの提案がなされていた。 各グループとも様々な見学者が利用しやすく、安全性の高い優れた見学ルートの提案がなされていた。 <p>③展示・学習内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも実物、模型に限らず、タブレットやタッチパネルディスプレイ等による映像等を用いた、展示・解説のコンテンツの充実と継続性、更新性に優れた提案がなされていた。特に、青グループについては、更新性においてより具体的で効果的な提案がなされている点を高く評価した。
オ 外観計画	<p>①周辺環境や地域住民への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも明確なデザインコンセプトのもと、本事業実施区域にふさわしいデザインの提案がなされていた。 各グループとも建築・造成・色彩計画について、水田やボンゴ山公園に近接するなどの地域特性を踏まえ、圧迫感軽減や日影の影響、事業実施区域全体の一体性及び周辺環境との調和に配慮された優れた提案がなされていた。
(3) 機械設備及び土木・建築に共通の事項	
ア 工事施工中の対応	<p>①工事中の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも施設整備の工程について、電柱の移設等の工事に必要な各種協議及び申請スケジュールが考慮された提案がなされていた。 各グループとも安心、安全に工事ができる施工計画の提案がなされていた。 各グループとも振動、騒音、粉じん、濁水等の抑制、防止対策の観点から近隣住民及び環境に配慮された優れた提案がなされていた。
イ 省エネルギーへの対応	<p>①省エネルギーへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも省エネルギーに寄与する機器の採用等の考え方及び想定される効果について優れた提案がなされていた。特に、赤グループ及び青グループについては、採用する機器の考え方及び想定される効果について定量的で具体的な提案がなされている点を高く評価した。また、青グループについては、消費電力をより低減する提案であった点も高く評価した。 各グループとも省資源に関する低環境負荷材料（自然エネルギー）の使用の考え方（使用品目、量等）について優れた提案がなされていた。
ウ 工程管理	<p>①工程管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも積雪地であることなどの地域特性や社会情勢を踏まえた工程であった。特に、赤グループについては、冬季期間の施工不良を排除するための合理的な提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも過去の実績等に基づき、建設工事工期を遵守するための方策や、無理のない工程等について具体的で優れた提案がなされていた。特に、青グループについては、具体的な工期遵守方策を提示したうえで工事遅延リスクを軽減するための効果を期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。

表一 6 非価格要素審査の講評 (3 / 4)

評価項目	講 評
2 運営・維持管理に関する事項	
(1) 運転管理	
ア 運転管理体制	<p>①運転管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも同種施設の運転実績や資格を有する専門技術者の配置を考慮した、優れた運転管理体制の提案がなされていた。 各グループとも役割分担や運転人員数が社会情勢等を考慮した適切である優れた運転管理体制の提案がなされていた。特に、青グループについては、運転人員の適切な配置を評価するとともに、緑グループについては、運転人員数をさらに強化した提案を高く評価した。 各グループとも優れた人材育成方法の提案がなされていた。
イ 受入・受付・搬入物管理	<p>①受入受付方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループともごみの搬入者への分かりやすい誘導方法について、優れた提案がなされていた。混載ごみの場合についても分かり易い誘導が期待できる提案がなされていた。 各グループとも搬入ごみ情報（ごみの種類、発生先市町名、委託収集、手数料有無等）の把握が、搬入者に負担が少なく適切に行える提案となっていた。特に、赤グループについては、搬入者に配慮した搬入ごみ情報の確認方法を採用することにより搬入者の負担軽減のための効果が期待できる優れた提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも本施設において周辺交通や搬入出に支障をきたさないような効率的で円滑な受付業務の対応・対策についての優れた提案がなされていた。特に、青グループについては、渋滞解消に向けて他のグループにはない効果の期待できる優れた提案がなされている点を高く評価した。 <p>②搬入物管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも処理不適物の混入確認及び排除方法についての具体的で優れた提案がなされていた。 各グループとも展開検査の頻度や方法についての具体的で優れた提案がなされていた。
ウ 運転計画	<p>①運転計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも可燃ごみ処理施設について、将来ごみ量の推計値を踏まえて、エネルギー回収等を考慮した優れた運転計画（2炉稼働日数、全炉停止期間等）の提案がなされていた。 各グループとも可燃ごみ処理施設について、用役使用量が最小化となる優れた運転計画の提案がなされていた。特に、赤グループ及び青グループについては、燃焼方式や排ガス処理方式の工夫など、用役使用量の削減効果が期待できる優れた提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも本施設を稼働するために必要な燃料及び薬剤等を常に最大日使用量の7日分以上、同様にプラント用水は3日以上貯留するための、優れた提案がなされていた。
エ 緊急時対応	<p>①緊急時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも災害時（水害、地震、火災、停電、故障、その他緊急事態で各々の事象毎に）の管理体制、連絡体制、運転体制及び運転方法が十分である優れた提案がなされていた。 各グループとも災害発生後に、復旧を最短とするための優れた提案がなされていた。特に、緑グループについては、復旧を最短で実施するための体制を具体的に提示のうえ、被害状況に応じて早期復旧するための効果が期待できる提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも見学者及び作業員が施設内で1日程度滞在できるための防災備蓄倉庫の計画及び維持管理方法についての優れた提案がなされていた。
(2) 維持管理・補修計画	
ア 維持管理・補修計画(プラント部分)	<p>①維持管理・補修計画(プラント部分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも本施設を30年間使用することを前提とした、20年間にわたる効率的な維持管理を行うための優れた提案がなされていた。 各グループとも事業の継続性を保つための維持管理計画（使用機器及び部材の耐用年数との整合性を含む）についての優れた提案がなされていた。特に、青グループについては、維持管理計画において機器異常を早期発見するための効果が期待できる具体的な提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも予備品確保の計画についての優れた提案がなされていた。 各グループとも運営期間終了後の具体的な引継ぎ方法についての優れた提案がなされていた。特に、赤グループについては、運営期間中のノウハウが次期運営事業者へ確実に伝わる具体的な提案がなされている点を高く評価した。
イ 維持管理・補修計画(プラント以外)	<p>①維持管理・補修計画(プラント以外)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも本施設を30年間使用することを前提とした、20年間にわたる効率的な維持管理を行うための優れた提案がなされていた。特に、赤グループについては、維持管理計画において客観性及び信頼性を確保するための効果が期待できる具体的な提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも建築物（仕上げ、構造体）、建築機械及び建築電気設備の保全に関する計画が適切である優れた提案がなされていた。特に、青グループについては、保全計画において施設機能を維持するための効果が期待できる具体的な提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも啓発・環境学習設備の保全及び更新に関する計画が適切である優れた提案がなされていた。 各グループとも運営期間終了後の具体的な引継ぎ方法の優れた提案がなされていた。
(3) 測定計画	
ア 公害防止の対応	<p>①測定項目・測定頻度、基準値超過時の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも公害防止基準値を確実に遵守するための排ガス、振動、悪臭等の環境管理（測定項目、頻度、箇所等）についての優れた提案がなされていた。特に、緑グループについては、環境管理の頻度において公害防止基準値を確実に遵守するための効果が期待できる優れた提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも可燃ごみ処理施設から発生する排ガス中の有害物質の濃度が、要監視基準値、停止基準値を超えたときの対策等についての優れた提案がなされていた。特に、赤グループについては、排ガス対策において有害物質を安定除去するための効果が期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。

表一 6 非価格要素審査の講評 (4 / 4)

評価項目	講 評
(4) その他関連業務等	
ア 運営期間終了後の計画	<p>①運営期間終了後の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも運営期間終了後の効率的な維持管理計画（補修費、用役費、人件費）の優れた提案がなされていた。 各グループとも運営期間終了後の具体的な引継ぎ方法の優れた提案がなされていた。 各グループともノウハウ継承方法の優れた提案がなされていた。特に、緑グループについては、次期運営事業に影響を生じさせないための具体的な提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも運営業務の引継ぎ時及び引継ぎ後のサポート体制について優れた提案がなされていた。特に、赤グループについては、サポート体制において次期運営事業期間の引継ぎを着実に行うための効果が期待できる具体的な提案がなされている点を高く評価した。
3 事業計画に関する事項	
(1) 全体計画	
ア 事業実施体制	<p>①事業実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも応募者を構成する各企業の役割分担（業務内容等）と責任分担について具体的かつ適切な提案がなされていた。 各グループとも設計・建設・運営の各段階における実施体制について具体的かつ適切な提案がなされていた。 各グループとも設計・建設・運営の各段階におけるバックアップ体制について具体的かつ適切な提案がなされていた。特に、赤グループについては、バックアップ体制において事業の安定性を担保するための効果が期待できる具体的な提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも設計・建設・運営の各段階で要求水準書等の内容を遵守しているかを、応募者自らが確認（セルフモニタリング）し、組合がチェックできる体制及び手法について具体的かつ適切な提案がなされていた。特に、青グループについては、セルフモニタリング体制において安全に事業を遂行するための効果が期待できる具体的な提案がなされている点を高く評価した。 <p>②交付金申請支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも交付金申請支援について具体的かつ適切な提案がなされていた。
(2) リスク管理	
ア 財務の健全性及び想定されるリスクと対応策	<p>①財務の健全性</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも S P C の長期収支の安定化方策について、優れた提案がなされていた。 各グループとも代表企業及び構成員による S P C への出資額及び出資比率のバランスについての優れた提案がなされていた。 各グループとも財務の健全性確保のため、不測の事態が生じた場合の資金確保方策についての優れた提案がなされていた。 <p>②的確なリスク把握とその対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも本事業に関して組織体制や施設面におけるリスクの認識と対応策についての優れた提案がなされていた。特に、赤グループについては、リスクと対応策において運営事業者のリスクを極小化するための効果が期待できる具体的な提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも事故の防止と発生時対応、各種保険の活用（保険種目、契約者、被保険者、保険金額、適用範囲等の特記事項）についての優れた提案がなされていた。
(3) 地域貢献	
ア 事業期間を通じた地元事業者への発注	<p>①地元事業者への発注</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも設計・建設業務での各工事（下請けも含む）、資材調達等において、積極的に構成市町の地元事業者を活用（発注金額、発注内容及び地元事業者数等）することについての具体的な優れた提案がなされていた。 各グループとも運営・維持管理業務での用役調達等（従業員の調達を除く。）において、構成市町の地元事業者を活用（発注金額、発注内容及び地元事業者数等）することについての具体的な優れた提案がなされていた。特に、青グループ及び緑グループについては、発注額等において、構成市町の地元事業者をより積極的に活用している点を高く評価した。 各グループとも事業期間を通じて、構成市町の地元事業者との協力、連携体制に対し、優れた提案がなされていた。 各グループとも事業期間を通じて、構成市町の地元事業者への発注が確実に行われていることを組合が確認するための仕組みについての優れた提案がなされていた。特に、緑グループについては、仕組みの構築において地元発注が確実に履行されているかを確認するための効果が期待できる具体的な提案がなされている点を高く評価した。
イ 運営・維持管理業務時における地元採用等	<p>①地元採用</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも構成市町の在住者に対する就労の考え方についての具体的で優れた提案がなされていた。特に、青グループについては、構成市町の在住者を積極的に活用している点を、さらに、緑グループについては、既従事者への配慮も含めたより優れた提案であった点を高く評価した。 各グループとも構成市町の在住者の就労が確実に行われていることを組合が確認するための仕組みについての優れた提案がなされていた。
ウ 地域への貢献・組合との連携	<p>①地域コミュニティの場としての活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも地域に開かれた施設について配慮した点が具体的に提案されていた。特に、青グループについては、地域に開かれた施設への配慮において地域活性化を創出するための効果が期待できる独自の提案がなされている点を高く評価した。 各グループとも周辺住民との信頼関係の確立に対するコンセプトが具体的な提案がなされていた。 <p>②組合との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループとも設計建設業務、運営・維持管理業務において組合が行う情報公開等への協力が具体的な提案がなされていた。 その他、各グループとも組合との連携において配慮した提案がなされていた。

(6) 価格審査

副委員長及び応募者の立会いのもとで開封を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。
 価格審査結果は表－7に示すとおりである。価格審査は、最優秀提案者決定基準書に基づき、
 提案価格について得点化を行った。(配点 40 点)

表－7 価格審査結果一覧

項目		応募者		
		赤グループ	青グループ	緑グループ
提案価格		17,300,000 千円	21,519,070 千円	19,600,000 千円
内 訳	(設計・建設業務費)	(10,106,000 千円)	(11,719,870 千円)	(11,147,200 千円)
	(運營業務委託費)	(7,194,000 千円)	(9,799,200 千円)	(8,452,800 千円)
価格点		40.00 点	32.16 点	35.31 点

注) $\text{価格点} = 40 \text{ 点} \times (\text{最低提案価格} / \text{提案価格})$

得点は小数第3位を四捨五入して、小数第2位まで算出した値とする。

予定価格 : 25,608,000,000 円 (消費税及び地方消費税を含む。)

価格提案書比較価格 : 23,280,000,000 円 (予定価格から消費税及び地方消費税を除いた金額。)

$\left(\begin{array}{ll} \text{価格提案書比較価格を構成する設計・建設業務費} & : 12,600,000,000 \text{ 円} \\ \text{価格提案書比較価格を構成する運營業務委託費} & : 10,680,000,000 \text{ 円} \end{array} \right)$

(7) 総合得点の算出及び最優秀提案者の特定

最優秀提案者決定基準書に従って表－8に示すとおり総合得点を求め、総合得点の最も高い応募者：赤グループ(代表企業：日立造船株式会社 東北支社)を最優秀提案者として特定した。

表－8 総合得点の算出結果

項目	応募者		
	赤グループ	青グループ	緑グループ
非価格要素点 (配点 60 点)	36.74	37.73	35.47
価格点 (配点 40 点)	40.00	32.16	35.31
総合得点 (配点 100 点)	76.74	69.89	70.78

注) 総合得点 = 非価格要素点 + 価格点

応 募 者 名

■応募者番号：赤グループ

代表企業：日立造船株式会社 東北支社

■応募者番号：青グループ

代表企業：荏原環境プラント株式会社 営業本部

■応募者番号：緑グループ

代表企業：三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社 東北支店

5 総評

本事業では3グループから応募を受け、いずれの提案も本事業の事業目的を理解し要求水準を上回るものであるとともに、技術・運営面及び価格面双方において民間事業者の創意工夫やノウハウが盛り込まれた高いレベルでの提案であった。このような優れた提案をまとめるには、相当の時間と労力を要すると推測され、各グループに対して、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

選定委員会は、厳正なる審査の結果、応募者赤グループ（代表企業：日立造船株式会社 東北支社、以下「日立造船株式会社グループ」という。）を一般廃棄物処理施設整備・運営事業において、能代山本広域市町村圏組合の期待に応えることができる最優秀提案者として特定した。

最優秀提案者の提案は、内容が具体的であるとともに、本事業に対する積極的な取組み姿勢が伺え、高い評価であった。特に地域特性を踏まえた合理的な建築各種計画の提案がなされていた点、また、維持管理・補修計画の面では、安定稼働を継続できる具体的な提案がなされていた点、さらには、設計・建設・運営の各段階における事業継続を実現するための十分なバックアップ体制を有した事業実施体制である点が評価された。

今後、能代山本広域市町村圏組合と日立造船株式会社グループが良好なパートナーシップを構築し、公共事業の一環として事業目的及び基本方針に沿った安心・安全で循環型社会形成に寄与したごみ処理を実施することを期待する。そのため、日立造船株式会社グループに対しては、公共サービスの更なる向上のため、次の点に留意することを望むものである。あわせて、一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会は、能代山本広域市町村圏組合においてもこれらを配慮事項として改善に反映させることを望むものであり、日立造船株式会社グループに明確に内容を伝えるとともに、双方が誠実な協議を重ねることにより、本事業がより良いものになっていくことを期待する。

- (1) 本施設が有する機能等を最大限活用するとともに、資源循環あるいは低炭素社会や地球温暖化対策に貢献する施設運営に努めること。
- (2) 本事業は長期間にわたるため、能代山本広域市町村圏組合をはじめ地域住民との信頼関係が重要であり、誠意をもって事業の推進に努めること。
- (3) 工事期間中の安全対策には万全を期し、無事故・無災害の達成に努めること。
- (4) 施設の運営に関するデータ利用については、組合と十分に協議を実施し、誠意をもって対応すること。
- (5) 人員配置、業務研修及び運営期間終了後の引継ぎ方法など、技術提案書の内容については、組合と協議・連携を綿密に図ったうえで誠意をもって確実に履行し、一層の配慮をすること。特に、可燃ごみ処理施設の運転体制の変更にあたっては、施設の運転状況や運転員の習熟度等を十分に確認し、組合了承のもとで実施するなど、安定した施設運営の確保に努めること。
- (6) 事業期間を通じた地元貢献については、地元発注、地元資材の活用及び地元雇用のより一層の推進に努めること。
- (7) 地域住民等からの要望については、真摯に受け止め、誠意をもって対応すること。

令和3年10月11日

一般廃棄物処理施設整備・運営事業者選定委員会

委員長 濱田 雅巳